

クラウドサービスの種類

3種類にわかれるクラウドサービスを7つの観点で比較

近年、校務支援システムやグループウェアなど、学校向けのクラウドサービスが増えてきています。クラウドサービスは、主に3種類のシステム構成に分類されます。今回は、導入前に検討すべき7つの観点をもとに、各構成を比較しています。クラウドサービス選定の際に、お役立てください。

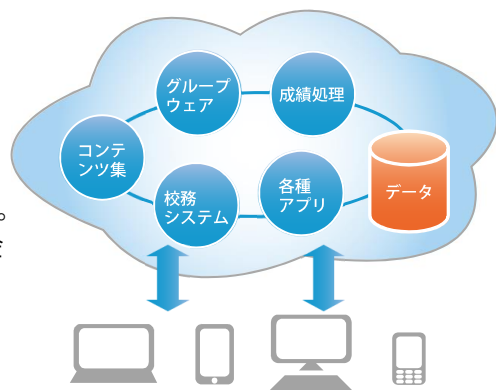


参照：一般財団法人全国地域情報化推進協会(APPLIC)「教育クラウド整備ガイドブック(第0.8版)」

クラウドサービスについて

利便性が高く、コストも抑えられる傾向にある

ユーザーは、インターネットを経由して、ソフトウェアなどのさまざまなサービスを「どこからでも、必要なときに、必要なだけ」利用できます。ユーザーは、インターネットを通じて受けたサービスに対して利用料金を支払います。



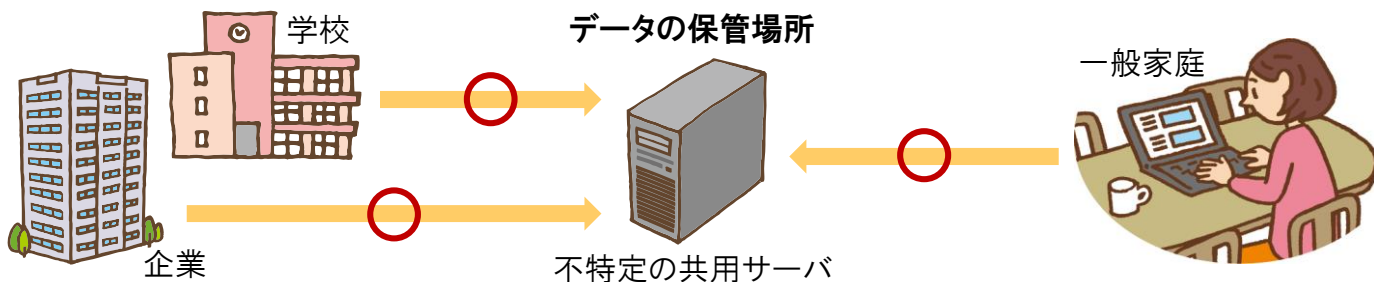
クラウドサービスの種類と特徴

比較表はJMC調べ

パブリッククラウド

不特定多数のユーザーが利用できるサービス

導入しやすく、導入後の管理負担も軽減できる



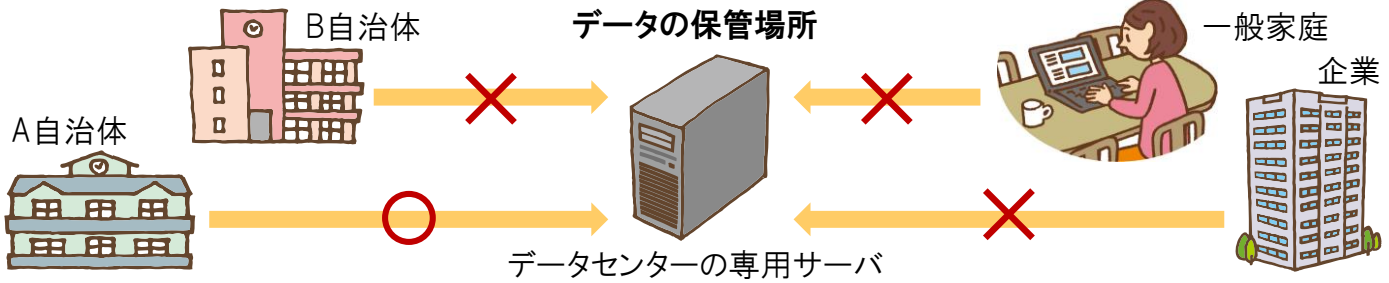
準備期間	ハードの選定	サービス内容	ネットワーク	保守サポート	セキュリティ	費用
◎ 契約すれば、すぐにサービスが利用できる。	◎ サーバの性能を検討する必要はない。	△ カスタマイズの対応範囲は限定的。	○ インターネットを使うため、新規の回線契約が不要。	◎ サービス内容に含まれている。	△ セキュリティポリシーに合わせた運用は困難。	○ 導入時の費用負担は軽減される傾向。

ほか2種類のクラウドは？

プライベートクラウド

各自治体や企業が専用で利用できるサービス

ニーズに沿った設計と強固な情報セキュリティ体制を実現できる

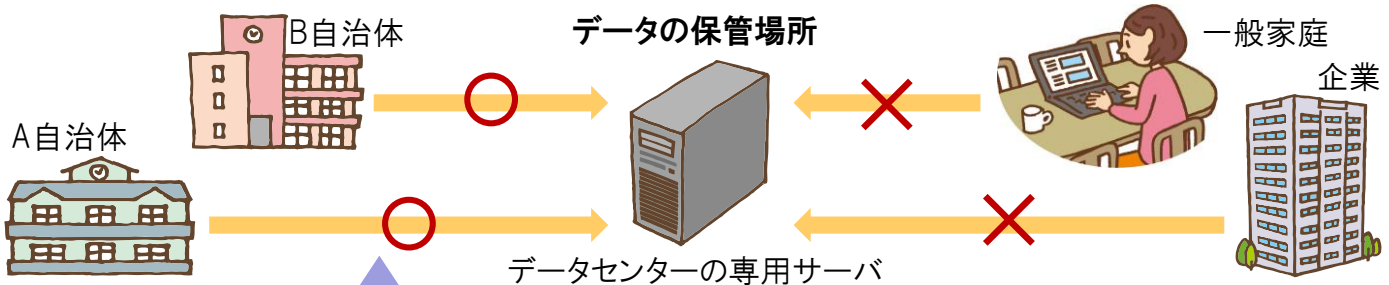


準備期間	ハードの選定	サービス内容	ネットワーク	保守サポート	セキュリティ	費用
△ システム構築期間が必要。	△ 必要な性能を想定して、サーバを選定する。	◎ 柔軟にカスタマイズ対応できる。	△ セキュリティが確保された回線の用意が必要。	△ 別途契約が必要。	◎ セキュリティポリシーに沿った設計が可能。	△ ハードやソフトの調達費用が高額になる傾向。

コミュニティクラウド

特定の目的を持つユーザーのみが利用できるサービス

セキュリティを確保しつつ、導入時の作業や管理負担を軽減できる



共同利用している他ユーザーのシステムにはアクセスできない

準備期間	ハードの選定	サービス内容	ネットワーク	保守サポート	セキュリティ	費用
◎ 提供されているサービスを使えばすぐに利用可能。	◎ サーバの性能を検討する必要はない。	○ カスタマイズ範囲はシステム事業者で異なる。	◎ インターネットを使うため、新規の回線契約が不要。	◎ サービス内容に含まれている。	○ セキュリティポリシーに合わせた運用も可能。	○ 導入時の費用負担は抑えられる傾向。

クラウドサービスの選定には、多角的な視点が必要です。
お困りの際は、ぜひご相談ください。